

「かけ・ボラ」

社会福祉協議会では

ボランティアとボランティアを必要としている方を「かけはし(コーディネート)」しています。

発行/揖斐川ボランティア市民活動支援センター
(揖斐川町社会福祉協議会内)

TEL:(0585)23-0411 FAX:(0585)23-1678

岐阜県ボランティアフェスティバル'13 ～みんなでつくる地域の居場所～

平成25年9月28日(土)、各務原市民会館において岐阜県ボランティアフェスティバル'13が開催され、揖斐川町からは15名のボランティアが参加されました。

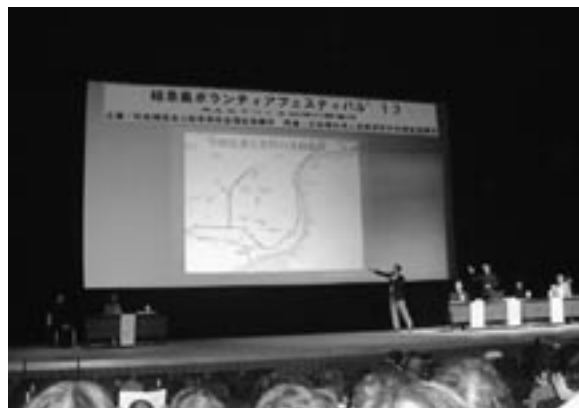
オープニングは、あしたの会共働学校による「スイミー」の演劇で始まりました。歌や踊りもあり、オープニングから大変盛り上がりました。パネルディスカッションでは、コーディネーターを中心に岐阜県内で活躍中のパネリストが、ボランティアと障がい者が気軽に交流できる料理教室の開催や、ボランティアの能力を最大限発揮できる取り組みとしての地域交流システム「グリーン」の実施、多世代交流型のおしゃべり所“茶の間”やりビングひよこ組の企画、運営といった地域の状況やニーズに対応した活動等について話をされました。どのパネリストも、地域住民やボランティアが身近で気軽に集まれる「居場所」をつくることを目的として活動されていました。

記念講演は、視覚障がい者でありながら、落語家として活躍している桂福点(かつらふくてん)氏による実体験や、自身の障がいを題材にした落語を披露されました。大変面白く会場からは笑いが絶えませんでした。

「みんなでつくる地域の居場所」のテーマのもと、障がい者理解とともに、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民の思いや活動展開のきっかけが必要であることを改めて学びました。揖斐川町においても、ボランティアを中心に誰もが「居場所」を感じられる取り組みや活動等を推進していくことが重要だと感じました。



▲あしたの会共働学校による演劇



▲パネルディスカッションの様子

「傾聴講座」を開催しました

10月3日（木）揖斐川町役場3階防災対策室において、子安崇雄氏（岐阜いのちの電話協会運営委員長）をお招きし、「傾聴講座」を開催しました。講座には多くの住民が参加し、上手な「聴き手」になるために「聴く」という技術を学びました。

人は話をすることが好きです。話すことは、聴くことの何倍もの大きな満足を得ることができると言われています。つらい時、悲しい時、誰かに一生懸命聴いてもらおうと心が軽くなり、勇気や元気を取り戻すこともできます。また、自分の話を聴いてもらった、受け止めてもらったということで、「聴き手」に対する信頼が生まれます。信頼関係や豊かな人間関係を築くために、「聴く」ということはとても重要な役割を持っています。

講演では、聴き方の違いで相手がどのように感じるか、相手が話しやすい聴き方とはどんな聴き方かなど、講義と演習を通して技術を学びました。参加者からは「これからは意識して聴き手になろうと思う」「聴くということがこんなに難しいと思わなかった」「もっと勉強したい」などの声がありました。今回は「傾聴」の入り口にふれていただきました。地域でのコミュニケーションづくりに役立てていただきたいと思います。



▲子安崇雄氏による講演



▲二人一組で「聴き方」の練習

揖斐川町傾聴ボランティア「ダンボ」は、平成24年度に設立した「傾聴」ボランティア団体です。会員は各々の福祉活動に「傾聴」の技術を活かし、平成25年4月からは施設ボランティアを開始しました。活動で感じたことや課題、今後の活動については、定期的な会議で話し合い、意見交換や情報共有をしています。また、技術向上に向けた勉強会も開催し研鑽を重ねています。今後も活動に期待しています。

ボランティアに関する
問合せ先

揖斐川ボランティア市民活動支援センター（揖斐川町社会福祉協議会内）
TEL: (0585) 23-0411 FAX: (0585) 23-1678